

日本財団助成事業 たまの渚の交番プロジェクト 基本計画

1 趣旨

「たまの渚の交番」という「海と人と地域の共生を推進する拠点施設」を整備し、次の4つの事業を推進する。

(1) 海の安全・保全

ライフセーバーを常駐させることで、海難事故を防ぎ、多様化する海岸利用者の安全を確保する。また、地域住民との協力により、防災・防犯活動を行い、海岸の秩序を維持するとともに、海岸・海洋の保全を行う活動を推進し、美しい海岸を守る。

(2) 海洋教育

岡山大学海洋教育グループと連携することで、瀬戸内における海洋教育の推進モデルを構築する。また、様々なイベント・大会・教室などの催しを通じて、来場者に『海を親しむ』ことから、『海への関心』を持ってもらい、『海と人との共生』のために『海を利用しながら海を守る』ことの大切さを伝える。

(3) ビーチスポーツの普及・健康増進

渋川海岸の環境を活かし、運動機能の向上、心身の健康において優れた効果を持つビーチスポーツを普及し、渋川をその拠点として位置づけることで、広域からの参加者や来訪者を増加させ、地域活性化に繋げるとともに、地域住民の健康増進に役立てる。

(4) ツーリズム（観光）

近隣の観光施設との連携による相乗効果で渋川・王子が岳地域の魅力を高めるとともに、新たなアトラクションやイベントなどを事業化し、「たまの渚の交番」を維持管理していくための収益を確保する。

2 施設名称 たまの渚の交番

3 計画地、建築物規模及び敷地の整備状況

区分		渋川ビジターハウス	渋川海水浴場市営管理事務所
ア	所在地（岡山県）	玉野市渋川2丁目231番地	玉野市渋川2丁目223番地他
イ	敷地面積	1854.42㎡	
ウ	地域地区等	指定なし	
	用途地域	指定なし	
	建ぺい率	70%	60%
	容積率	300%	100%
	防火地域	指定なし（建築基準法第22条区域）	
	日影規制	なし	
	地区計画	なし	
	その他	国立公園第二種特別地域	

エ 建築物現況	延床面積	約 5 4 4 m ²	約 1 7 4 m ²
	構造	鉄骨造	
	階数	2 階	
オ 敷地の状況	上下水道	上水道共用地域、公共下水道処理区域内	
	電力	一般電気事業者：中国電力	
	ガス	LP ガス	

4 スケジュール（予定）

（１）基本設計業務・実施設計業務 平成 2 9 年 1 0 月～平成 3 0 年 1 月

※ 基本設計業務と実施設計業務は、併せて発注する。

（２）建設工事・工事監理 平成 3 0 年 3 月～平成 3 0 年 6 月

※ スケジュールは事情により変更する場合がある。

5 たまの渚の交番の基本方針

（１）環境にやさしく安全な施設

ア 持続可能な社会を具現化するため、エネルギー消費効率の高度化を図り、トータルライフコスト重視の施設を目指す。

イ 海岸周辺施設であることを考慮し、自然災害に備えた防災拠点を目指す。

（２）人にやさしく親しまれる施設

ア 本施設は、多数の人が利用する施設であるため、分かりやすく、使いやすく、親しみやすい場であることが求められることから、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを導入した施設とする。

イ 施設機能の主要部分を構成する管理事務室は、執務及び会議を効率的かつ快適に行える空間とする。また、高度情報化に対応した環境を整える。

（３）玉野らしさを発信する施設

本施設の建設地である玉野市は、岡山県の南端、岡山市の南 30km に位置する、人口約 6 万人の地方都市である。「晴れの国おかやま」の中でも特に晴れが多く、気候風土に恵まれ、美しい瀬戸内の海に面した海洋都市として地域の良さを広く発信できる施設とする。

（４）海洋教育を発信する施設

本施設の近隣には、岡山県内の 9 6 % の児童が来場しカッター漕ぎや地引網などの研修を行う渋川青年の家や、日本最古の海洋博物館として知られる玉野海洋博物館がある。たまの渚の交番は、海洋基本法に基づいた海洋教育発信の場として、岡山大学海洋教育グループと合同で、近隣施設と連携を図ることで、瀬戸内の海洋教育の発信拠点を目指している。海洋教育に取り組むに相応しい施設とする。

6 施設計画の基本条件

（１）敷地利用及び配置計画

ア 施設は、事務所及び会議機能等の配置構成を検討し、将来の多様な変化にも対応できるものとする。

イ 周辺施設とつながり、連携した事業により、様々なアイデアを形にしていく拠点施設として、多様な使用用途に対応できる建物とする。

ウ 施設の防災・防火機能の確保とともに、環境負荷低減に配慮した良好な景観を形成する。

7 たまの渚の交番の必要機能

※ それぞれの床面積については基本設計の段階で決定するので、プロポーザルの時点では、各提出者が想定した面積で計画する。

(1) 渋川海水浴場管理事務所機能

ア ライフセーバー、スタッフ待機場所

イ 救護室

ウ 警察詰所

エ 放送スペース

オ コインシャワー・コインロッカー・更衣室

(海水浴シーズンに対応できる規模 (H28実績：43日間で約62,000人))

(2) 交流拠点、賑わい創出機能

ア 交流スペース (地域の情報発信、地域の憩いの場)

イ テナント事務所 (岡山県水難救済会 予定)

ウ ミーティングルーム (会議室)

エ 多目的ルーム (ヨガ・フィットネス等ができる部屋)

オ 売店機能 (地域特産品等の販売)

カ ウィンチ (荒天の際にカッター※を避難させるための設備)

※カッター：渋川青年の家の研修用ボート

(長さ：900cm、横幅：最大245cm、高さ170cm(据置土台含む)、重さ：約2t)

(3) その他

ア 用具倉庫 (海水浴場運営・ライフセービング・ビーチスポーツ・地域イベント等の用具倉庫)

イ 作業場 (公園内の看板の制作、修繕)

ウ 給湯室等通常想定される室

8 その他

その他については、基本設計の段階で検討する。